

# 神戸新聞

## 希望伝える 笑顔の傘



阪神・淡路大震災で被災の東遊園地ではインターネットの神戸市内で11日、東日本大震災の被災地と結ぶ催しが行われた。同市中央区震災復興記念公園「みなと

のり公園」では、世界の被災地で撮影した子どもの笑顔の傘が一面に開き、東北に希望を伝えた。

東遊園地では、震災の遺族やボランティアらでつくるNPO法人「阪神淡路大震災1・17希望の灯り」のメンバーが、東北の被災地4カ所とネット動画でつなぐテレビ討論会を開いた。

同法人が支援する岩手県陸前高田市・大船渡市、宮城県石巻市、福島県南相馬市の被災者が参加した。

17年前に長男の誠さん

当時16歳を亡くした松浦美佐子さん(59)は「泣いてばかりの日々でした。東北はまだ1年しかたつていない。頑張らしてほしい」とエールを送った。東北からは現状が報告され、復興の遅さを訴える声もあった。

現地からの「黙とう」を合図に、共に迎えた午後2時46分。松浦さんは「復興

東北など地震被災地の子ども31人の笑顔の傘が開いたメリーイン神戸」

11日午後、みなとのり公園(撮影

・吉田敦史)

### 神戸 大学生ら100人 復興願い行進

という段階ではないかもしれない。それでも前向きに生きて。ほんの少しでもいいから希望を持って」。そう願った。

一方、子どもの笑顔の傘を広げて行進する催し「メリーイン神戸」には、大学生ら約100人が参加し、三宮センター街からみなとのり公園までを歩いた。

東京のアートディレクター水谷孝次さん(60)が陸前高田市や神戸、中国・四川などで撮影した子どもの笑顔が、傘の上に広がった。

同公園では別の市民も合流し、計311人分の傘に、支援団体「ユナイテッド・アース」が約1万人のメッセージを募った絆レインボーフラッグ(長さ約1111m)も登場し、神戸から東北に向けて笑顔の虹をかけた。

神戸薬科大4年の大野正裕さん(23)は「小さな行動だけでも、被災地で一人でも笑顔になってほしいと参加した」と話した。

(斉藤絵美、仲井雅史)

震災復興記念公園 ON AIR  
http://www.kobe-np.co.jp/